



TUAD IS HERE

日常の中の芸工大 WEB

I'm here. vol.1 | 仙台展 [ピクニクス・ドローイング]
望月梨絵+ナガバサヨ

会期:7月21日(月)〜8月3日(日)

会場:Picnica + Enoma / re:bridge edit
主催:東北芸術工科大学(卒業生支援センター)
協賛:東北芸術工科大学校友会 / 卒業生後援会
キュレーター:宮本武典(美術館大学構想室)
WEB: www.tuad.ac.jp/museum

美術カフェ「Picnica」でお会いしましょう。

仙台市一番町にあるお酒落な美術カフェ「Picnica」は、在仙アーティストたちのたまり場の存在。オーナーの木村良さんは、自らも絵筆をとる芸工大の卒業生で、カフェでの展示会だけでなく、一番町界隈でアート関係のイベントを精力的に開催するマルチな仕掛け人。今年6月には、カフェの2階に新たなアートスペース「Enoma」をオープンさせ、仙台をアートで面白くするための舞台を着々と広げています。そして、芸工大でアートを学んだ才能あふれるアーティストを発掘し、紹介するアートショー「I'm here.」。2008年度は、仙台→山形→東京と3つの街で開催しますが、そのオープニングを飾る仙台展は、この「Picnica」をはじめとする芸工OB運営のギャラリーとのコラボレート。テーマはズバリ「夏のアートなピクニック」です。アートを介しての「場づくり」の達人と、若い2人の女性アーティストが描き出す、街とアートの幸福なマリァージュは必見です。



上からナガバサヨ、望月梨絵(右下)、木村良(Picnica)。

表紙のART

WEB



肘折温泉 上の湯「肘折煤染」
美術科工芸コーステキスタイル専攻 4年

開湯1201年という歴史ある肘折温泉の共同浴場「上の湯」。昨年、建築・環境デザイン学科の竹内教授らによって外観の改修を終え、今回は、その内壁の装飾がテキスタイル専攻の学生や教員に託されました。肘折色を出すために天然染料で染めた糸を肘折温泉の源泉や黄金温泉のソーダなどに浸すことで煤染し、その糸を月山和紙に漉き込み、大型のテキスタイル作品「肘折煤染」が完成。「上の湯」の壁面に創り出された新しい「ひじのり」の風景*が人々の目を楽しませています。

「煤染」とは?

「煤染」とは「煤」と「染」の造り字。煤(すす)と染(ぞめ)を合わせた造り字。煤染とは、煤を染に用いた造り字。煤染は、煤(すす)と染(ぞめ)を合わせた造り字。煤染とは、煤を染に用いた造り字。煤染とは、煤を染に用いた造り字。

東北芸術工科大学

学芸学部
美術史・芸術教育専攻
美術史専攻
美術科 [総合美術 / 日本画 / 西洋画 / 彫刻 / 工芸 (陶芸・図案・金工) / テキスタイル]

デザイン工学部

芸術学部
プロダクトデザイン学科
インテリアデザイン学科
グラフィックデザイン学科
映像学科

学大附属高等学校
修士後援機関 芸術工学専攻
修士課程 [美術文化専攻 / デザイン工学専攻 / デザイン工学専攻 総合コース]

研究機関
総合研究センター / 東北文化創造センター / 文化財科学技術支援センター / 工学教育実践センター / デザイン工学研究センター / 欣賞文化研究センター / 社会芸術総合センター
*上記の機関はすべて協力機関です。

ACCESS



東北芸術工科大学広報誌「ジー・ジー」

2008年7月10日発行
発行: 学芸部人達 東北芸術工科大学
〒988-8630 山形県上沢町2-4-5
東北芸術工科大学広報誌
TEL: 023-627-2288 FAX: 023-627-2195
Web: www.tuad.ac.jp
E-mail: hello-ggg@tuad.ac.jp

Design: Creative Room J1
Printing: Tamiya Printing co., Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2008



NEW FACE, NEW TUAD.

2009年4月、東北芸術工科大学は新たに生まれ変わります。

デザイン工学部では、学科体制を見直すとともに新しい学科が誕生。そして、芸術学部では人材育成・教育環境の一層の充実を図るとともに新しいコースがスタートします。ここでは、その新生・芸工大を牽引する5人の新任教授・准教授からのメッセージを紹介します。



1:ハイビジョン録画対応で、SDメモリーカードへ録画するビデオカメラ。2:パナソニックデザイン社が2003年に打ち出したデザインテーマ「CleanStyle」によるアイロン。3:世界で唯一のプロダクトデザインの国際会議「国際インタストリアル協会」での講演会の様子。

未来の地球のために、芸工大からサステナブルデザインを発信する。

植松豊行 デザイン哲学研究所教授／サステナブルデザイン研究センター長



“サステナブルデザイン”まだ耳慣れない言葉ですが、これからのデザインにおける基本になります。わかりやすく言えば、地球環境と人間尊重を基盤に、調和し、持続的な発展が適う社会の構築を図る“モノ”や“システム”を創ること。ユニバーサルデザイン、エコロジデザイン、デジタルネットワークなど、人のためといながらも、それが分からない人、使えない人が増えています。もはや、モノづくりの仕組み、体制、価値観自体を変えていかなければという思いを抱いています。それが本学の建学の精神に合致し、大学は研究機関であるべきというミッションにも適うという

ことで、本学で研究が進められる事になったのです。私が松下電器産業およびパナソニックデザイン社で培った経験と知識、グローバルな感覚、プロデュース力を生かし、さらに本学の教員を含め、私の人脈を生かした国内外のエキスパートと連携、分担しながら推進していきます。それを人材育成にリンクさせ、有望な人材の輩出にもつなげます。 WEB

●うえまつとよゆき／1948年生まれ、香川県出身。武蔵野美術大学造形学部産業デザイン学科卒業。1971年松下電器産業株式会社入社。2002年にパナソニックデザイン社社長に就任し、在任中にブランドの確立と松下電器産業株式会社のV字回復に貢献。

幸せを創れる人をこの大学で育てたい。

小山薫堂 企画構想学科教授



「それは新しいか」、「自分にとって楽しいか」、「だれかを幸せにするのか」——モノづくりをする時、この3つを自分への問いかけにしています。テレビやラジオ番組、企業のコンサルティングなど、現在進行しているプロジェクトは50くらい。すべてに通じるテーマは“おもてなし”です。日常には、僕らが気づいていない幸せや、幸せだということを忘れてしまっていることがたくさんある。それに気づかせてあげるのが僕の役目。自分の力で世の中を変えることはできなくても、きっかけを作ることにはできる。僕は「TOKYO SMART DRIVER」という交通事故削減のキャンペ

ーンに関わるようになって運転が優しくなりました。進んで道を譲ることで気分がよくなり、優しい気持ちになれたんです。渋滞のような辛い時でも幸せを見つけれ人は素敵ですよ。見方が変わると価値観も変わる。学生には、そんな思考や発想ができる大人になってほしい。気づきを大切に作る人、幸せを創れる人をこの大学で育てたい。そして僕は、学生を幸せな大人にする自信があるんです。

●こやまくんどう／1964年生まれ、熊本県出身。日本大学芸術学部放送学科卒業。大学在学中より放送作家として活躍。現在は、小説執筆やラジオのパーソナリティ、商品開発など多方面で才能を発揮。



4:東日本橋の築40年の倉庫ビルをオフィス、スタジオ、住居にコンバージョンした。5:「Real Tokyo Estate」東京R不動産」魅力的な物件が山ほど眠る東京から、新しい視点で不動産を発見していくサイト。

小さくてもいい、社会に作発表して実践的な力を磨 馬場正尊 建築・環境デザイン学科准教授



「日常生活にちょっとしたユーモアを滑り込ませていく。僕にとって建築設計のプロセスは、そんな感覚の連鎖によって成立しています。発想のヒントは常に生活全部の延長上にあって、それを具体的な形に落とし込めることが建築設計の魅力。今年力を入れているプロジェクトのひとつが東京郊外での住宅設計。きっかけは、定年後に都市の環境を楽しみながら農家暮らしをしたいという施主さんからの相談でした。こうしたニーズを捉えて設計してたり着いたのが「新しい郊外」という考え方。この家の庭には大きな畑があり、そこで収穫した野菜を土間にあげ、土間

品をいて欲しい。



はキッチンにつながっていて、すぐに料理ができる。畑を中心とした一連の動線になっているんです。その庭に面したお風呂から自分の作った野菜を愛でながら湯舟につかる。こんな風にそこに佇む人が素直に幸せを感じられる空間を作ってあげたい。そして、自分の作品が誰かの大切な場所として残り、風景の一部として定着していい。その喜びを学生とともに分かち合えたいと思います。

●ばばまさか／1968年生まれ、佐賀県出身。早稲田大学大学院理工学研究科工学専攻を修了後、情報学社。株式会社「Open A」代表取締役。新しい視点の都心の物件サイト「東京R不動産」を運営。

日本には心を動かすものが沢山ある。苦勞しながらも楽しんで欲しい。

エマニュエル・ムホー プロダクトデザイン学科准教授



着物や寺院の朱色、街の看板、日本人の文化には色がありました。襦や障子といった伝統的な仕切りがありました。それらが失われつつあることをとても残念に思ったことが私のデザインのテーマとなっています。高校生の頃から日本の小説に親しみ、その小説を通して触れた日本の文化や建築に憧れて来日。東京が大好きになり翌年にはもう東京に住んでいました。私のデザインはまさに日本からインスパイアされたもの。東京で暮らすことで“色”への興味が高まり、色を後付けの単なる仕上げと考えるのではなく、最初からプロジェクトを色で構成する、

色自体で空間を創るということに取り組んでいます。はじめて山形に来たときから居心地のよさを感じ、芸工大っておもしろい、ここでならやっつけられるという手応えを感じました。学生のみなさんには、他の演習よりもかなりハードな課題を与えていると思いますが、苦勞しながら楽しむということも身につける狙いもあるのです。私を通して逆に日本の良さを感じてもらえたらいいですね。

●エマニュエル・ムホー／1971年フランス生まれ。ボルドー大学建築学卒業。フランス公認建築家免許取得後に来日。2003年エマニュエル級建築士設計事務所を設立。



10:「stick chair(2007年)」カラフルな脚が印象的な椅子。11:「CS Design Center」中川ケミカル(2007年)インテリアデザイン・設計を担当。



作品名:サイドカーに犬 発売元:ポニーキャニオン 税込価格:4,935円(2枚組) ©2007「サイドカーに犬」フィルムパートナーズ

大学時代を精一杯使って自分のドラマをつくらうじゃないか。

根岸吉太郎 映像学科教授

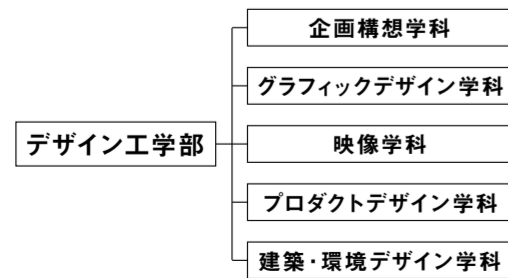


いかに見えないものを映し撮ることができるか……。実際に見えるものをどう撮るかも大切だけど、そこに流れている空気や、役者がしゃべっている言葉とは別の思いをどうしたら表現できるのかを考えています。目に見えないものを映像化するために必要なことは“人を観察すること”。そして、人間の不確かさを愛すべき部分を魅力的だと思えることも大事。他人や自分に対して視線を向けることが、映像の始まりだと思えます。映画は、厳密な計算で組み立てられているのと同時に、俳優やスタッフひとりひとりが替わるだけでも全然違った作品になる、そんな偶然の賜でもあり

ます。監督が映画のすべてを仕切っていると思われがちですが、大勢でひとつのことに打ち込み、つくり上げていくことが映画作りの醍醐味。映像学科の中でも、みんなで一緒につくることの楽しさを学んでほしい。いろんな映像に触れることで、自分にとって映像とは何なのかを見つければいい。4年間で愛すべき部分を魅力的だと思えるような気持ちで、映像学科と一緒につくっていきたいです。

●ねぎしちたろう／1950年生まれ、東京都出身。早稲田大学第一文学部演劇学科卒業。1974年日活入社。1978年に初監督後も様々な作品を手掛け、東京国際映画祭での4部門受賞など受賞歴も華やか。

デザイン工学部が2009年度から5学科体制になります。



企画構想学科 NEW

新たな価値「ブランド」を生み出す「企画力」を身につけ、人を幸せにする術を磨くことが大きなテーマ。当たり前だったことの価値を再発見し、魅力の引き出し方や表現方法、コミュニケーション、時代を極める感性など、様々な分野で求められる企画力を事例から習得。創造力と仕事力の両面を備えた人材を育成します。



グラフィックデザイン学科 NEW

デザインで状況にしなやかに対応し、強く確かな未来を切り開けるクリエイターの育成を目指します。ポスターやパンナーのデザイン、パッケージなどの他、公共サイン、高齢化社会に求められるインフォメーションのスタイルなど、新しい分野へも積極的に取り組みます。産業や自治体などと協力した実践的な授業も特徴です。



映像学科 NEW

映画の分野に加え、CG、アニメーション、CMや写真など、様々な表現の世界を学びます。動きや音、色、ストーリーを組み合わせてイメージやメッセージを伝える映像制作。技術革新やWEBメディアの発展などで、「映像」は一層私たちの身近な存在になっています。映画祭や映画館と連携し、大学を越えた活動を展開します。



プロダクトデザイン学科

雑貨、家電、自動車などの製品、住宅や家具などのインテリア、公共空間やディスプレイまで、生活を支える製品や空間を創造するデザイナーを育成します。素材の持つ可能性や、言葉からの形態発想など、実験的なデザイン探求の精神を大切にしています。キャンオンやホンダなど、企業と連携した授業も大きな特徴です。



建築・環境デザイン学科

等身大の建築や空間から、街や都市、自然や景観を学びます。21世紀のライフスタイルは、建築設計やデザインだけでなく、環境も併せて考えなければなりません。それらを学ぶには、山形の豊かな自然環境や伝統、都市の規模は絶対的ボジション。市内の建築のデザインや改修を学生が実施するなど、実践的な活動も魅力です。

全天候型『織り合いの場』に新しい、懐かしいふれあいが生まれる。

芸工大の現代GP*「芸術工房ネットワーク」の一環として、ここ朝日町では旧立木小学校「バス停ベンチ」を提案。新しいコミュニケーション空間をデザインしました。



近く採れた山菜を囲んで『織り合いの場』で語り合う人々。「朝日町教育研究所立木研修センター」として活用されているこの場所が、より集いやすい場になった。

廃校プロジェクト * 朝日町の人々

2007年春、芸工大生を対象に〈旧立木小前バス停まち合いの場デザインコンペティション〉を実施。『バスを待つ“場”に限らず、近所の子どもの遊び“場”や、旧立木小学校を拠点に創作活動を行う芸術家集団「あとりえマサト」のメンバーと地元の人々が交流する“場”、あらゆる人にとってやさしい“まち合いの場”のデザインを提案してほしい』との呼びかけに44名の学生が応募した。公開審査の結果、上田佑樹さん(当時:建築・環境デザイン学科4年)の『織り合いの場』が最優秀賞に選ばれ、より使いやすいように練り直した上で実製作に入り、このほど完成したのが、写真のテーブルとベンチです。もともとあった玄関の大きな柱を軸に回転して移動できるテーブルとベンチを組み込み、雨の日には屋根の下に、天気の良い日は屋根の外にと、自在に方向が変えられるようになっています。この日は日曜日、腐食剤も塗り終えてすっかり柱と一体化した『織り合いの場』を日向へと移動させて、地元の大工さんや子どもたちと「あとりえマサト」のメンバーがつろいでいました。前の週に行われたお披露目会では、ベンチに座って抹茶が振る舞われ、テーブルとベンチのレイアウトを変えてコンサートが開かれるなど、地元の人々もたくさん集まり、文字通り『織り合いの場』として好調なスタートを切りました。その頃、同じ朝日町の上郷地区では、チュートリアル「実験表現研究会」のメンバーが、秋に旧上郷小学校で開催予定の展覧会の準備段階として、ワークショップや思い思いの取材活動を通して地域の人々との交流を深めていました。朝日町の廃校を舞台とする芸工大生たちの多彩な活動が、地域に新しい風を吹き込んでいることは確かです。**WEB**

*文部科学省平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム

PICK UP



左:お気に入りの風景を見つけてはスケッチに没頭する「実験表現研究会」の学生たち。右:地域を探索するうちに昔、染め物業をしていたというおじさんとたまま出合い、当時の染め物事情を取材する学生。



コンドニ佐竹(佐竹商店)店主 佐竹登善善さん
旧立木小学校で芸工大の人たちが活動をするようになって、最初はみんな遠巻きに見ているという感じでしたね。この辺の人はシャイだから。最近、ようやく打ち解けてきました。今回『織り合いの場』ができて、ますます人が集まりやすくなった感じがします。あのテーブルとベンチ、回転式で移動できるなんて素晴らしいアイデアですね。設計図の段階より実物はさらに立派でびっくりしました。今後いろんな集まりに活用できそうで楽しみです。



大勢の先輩や同僚とともにパソコンでのデスクワークに勤む星川さん。法人向けの企画やシステムを提案する法人営業本部に所属しており、プレゼン用の資料作成なども担当。

“頭で考えるより体で考えよう”精神でとにかくじっとしていないゼミでした。

歴史遺産学科OGの星川さんを荒木先生が職場に訪ね、近況やゼミ活動の思い出話などで盛り上がりました。卒業から5年、今でもたまに会ったりメールをやり取りしたり、先生と教え子というより先輩後輩のように仲のいい2人です。

星川奈津美 Hoshikawa Natsumi

山形県山辺町生まれ、県立北高出身。2003年芸術学部歴史遺産学科卒業。4年間のホテル勤務を経て、今年1月より荘内銀行に勤務。現在は法人営業本部に所属。

荒木志伸 Araki Shinobu

國學院大学博士後期課程修了、博士(歴史学)。専門は歴史考古学。2000年より歴史遺産学科講師。山形県ふるさと推進協議会委員など、県内の様々な活動に携わる。県内の寺社や郷土歴史学会からの信頼も厚い。



先生の行動力には多大な影響を受けました。お酒もすごく強くて……。

星川さんたちは、私が講師になって初めて教えた学生だから印象深いです。

芸工大OG * 専任講師

荒木 新しい仕事に就いて半年ぐらいだけど、どうですか?
星川 はい、おかげさまで。がんばってます。おっとりしているように見えて、学生時代からすごいバイタリティーがありましたよ。就職活動でも自分で積極的に動いて希望職種への道を切り開いたぐらいでしたからね。
星川 先生のおかげで大学生になってからはそれまでの自分では考えられない行動をするようになりました。卒論のために一人で奈良まで当然のように行きましたし。
荒木 基本的に芸工大の学生たちはフットワークがいいというか、本当にいろんな所へ調査研究や資料収集に出かけますね。今の学生たちもそうです。
星川 先生の行動力を見ていると自然にそうなっちゃうんです。先生は一年中、いろんな所を飛び回っていますから。
荒木 確かに。私自身が“考えるより前に

行動してみよう”というタイプだから。星川さんたちの頃は高島町の調査をしてましたね。
星川 そうです。よく分からない土地なのにいきなり「現地集合!」ですから。もう、必死でしたよ。でも、そのおかげで知らないところへ行っても、ちゃんとあいさつをしてコミュニケーションがとれる能力が身に付きました。目上の人、年配の方と接する機会が多かったことも、社会に出て大いにプラスになっています。それから、先生のゼミで毎週のようにやったプレゼンや発表も。
荒木 歴史遺産の研究と銀行業務とで、直接的な繋がりがあるんですね。
星川 直接ではありませんが、資料集めや自分の考えをまとめたといった下準備が今所へ調査研究や資料収集に出かけます。法人向けの企画やシステムを構築する業務にあたっては、順序立てて準備を進める。プレゼンをするという手順や基本は同じ。今はまだ上司のお手伝いという段階で、私自身がプレゼンをすることはありませんが。

荒木 改めて大学での学びが役に立っているなんて言われるとうれしいですね。在学生にも話して聞かせてあげよう。
星川 でも先生、ひとつだけちょっと困ったことがあって……、今の仕事はパソコンに向かってのデスクワークが多いんですが、じっとしているのがけっこう辛いんです。
荒木 私も最近は地元からの調査依頼が多くて、以前ほどあちこち動き回ってはいないの。でも、地域のために仕事ができるというところは、かけがえのない充実感があります。
星川 そうですね。「地域に根ざして〜」は、荘内の精神でもありますから。芸工大の後輩たちの地域での活動を新聞などで知ると励みになります。先生ともこんな風にずっとつながっていたいので宜しくお願いします。
荒木 もちろん、こちらこそ宜しくお願いします。これからもお互い頑張りましょう。

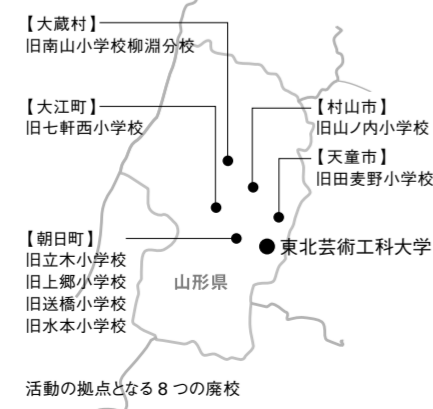


荒木先生が取り組んでいる「立石寺の石造文化財の調査」で実地学修する学生たち。畚むす石に刻まれた文字を解読している。
*山寺での研究は、ORC整備事業の一環です。

INTERVIEW

現代GP

大学、そして大学を取り巻く地域社会までもまるごと美術館にしよう。その夢を叶えるため、文部科学省より「現代GP」に採択されたのが、『芸術とデザインによる廃校活用と地域教育』の取組み。以前から交流が続けてきた山形県朝日町を拠点に活動範囲を大きく広げ、大蔵村や天童市の廃校とも連携し、それぞれを芸術工房村にすることで『芸術工房ネットワーク』が築かれつつあります。



今年6月、旧立木小前バス停に学生がデザインしたベンチとテーブルが設置され、お披露目会が行われた時の様子。



昨年夏の展覧会で展示された学生が中心に制作した田麦野の絵地図。

歴史遺産学科

歴史、考古、民俗・人類の3分野から、縄文から現代まで人々がたどってきた歴史と、その中で育まれてきた「もの」と「こころ」の軌跡を追求します。そして、これから私たちが地域に生き、地域を支えていくための歴史哲学を探ります。教授と共に現地で実践的調査・学習する授業が中心で、東北文化研究センターとの連携した教育プログラムも特徴です。



東北文化研究センター

縄文文化の原点と言える「東北の地」に未来を生きるための英知を求め、人類の明日を切り開くことを目的に設立。東北の大地に埋もれた歴史や文化の掘り起こしを通じて、建学の理念に謳われる「東北」がこれからの日本やアジアに寄与できる可能性を研究しています。そして、その研究成果を教育に還元しながら、「東北ルネサンス」運動を牽引しています。



OPEN GALLERY



水彩画の描き方のポイントをアドバイスする山田先生と真剣に聞き入る須藤さん。



「山寺幽玄」

●出品者

須藤一誠 Suto Kazunobu

天童市在住の64歳。定年を機に趣味を増やそうと考えていた時に水彩画に出会い、中学生以来数十年ぶりに絵筆をとった。昨年は大学の社会人講座にも通ったほどの勉強家。自宅の庭や山寺、最上川など、風景を中心に描き続けている。

●寸評

山田修市 Yamada Shuichi

芸術学部長。1948年新潟県生まれ。東京藝術大学大学院修了。油絵、壁画が専門。大橋賞、独立賞、ジャパン大賞、人間賛歌奨励賞北里大学賞上、昭和会賞など数々の賞を受賞。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡仏など、国内外で活躍。

SHORT REVIEW

あなたの作品、寸評室

はじめて間もない水彩画ながら、ぜひ先生の評価と指導を仰ぎたいと応募された須藤さん。最初に描いた作品から最新作まで5枚の水彩画を大事に携えて、山田芸術学部長のもとを訪れた。

須藤 昨年からはじめたばかりでお恥ずかしいんですが、どうしてもご指導を仰ぎたくて応募しました。宜しくお願いします。これが最初に描いた水彩画です。

山田 これは山寺ですね。建物が好きなんですね。とても丁寧に描かれていいですよ。硬い建物と柔らかい植物という組み合わせもいいと思いますよ。

須藤 水彩画の場合、立体感というか遠近感が出にくくて苦心しました。山の色は本当はこの色ではないんですが、それでもいいんでしょうか。

山田 水彩画の場合は、下に明るい緑を使ってだんだん濃くしていくというのはいいと思います。みんな植物の色の違いを表そうとしている工夫されますが、須藤さんもよく考えられていますね。ただ、手前の風景

と遠景と空とがみな同じ分量で、どこを一番表現したかったのかが伝わりにくいという点が気になりますね。恐らく前景から描かれたと思うんですが、そうすると背景がなかなか描きにくくなるんですよ。

須藤 確かに手前の風景から描きはじめて、成り行きで遠景、空と描き進めていった感じでしたね。

山田 基本的には遠くから描き始めて、広い面積のところから色を入れていく方が色がのりやすいとされています。ですから、全体的に仕事を進めながら部分にこだわるといいんだと思います。この絵でいうと、いちばんメインの建物はとても印象深く描かれているので非常にいいわけですから。

須藤 「想像で描かないで実物を何回も見なさい」というアドバイスを本で読んだので、山寺には何度となく足を運びました。

山田 須藤さんが丁寧に見て描いているというのは伝わってきます。私も山寺の風景は好きですが、山の中腹にある建物の距離感を出すのは本当に難しい。その難しい題材をよくここまで描かれたと思います。WEB

出品者大募集!

あなたの作品も、専門の先生の寸評を受けてみませんか。絵画、陶芸、工芸、CG作品など何でも結構です。芸工大が誇る層の厚い先生達がやさしく的確に評価し、今後につながるアドバイスをいたします。ご希望の方は、1.住所、2.氏名、3.生年月日、4.職業、5.平日の日に連絡が取れる連絡先と併せて、6.作品のジャンル、7.大きさや重さ、8.概要を以下の窓口までご連絡ください。FAX: 023-627-2185 E-mail: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

※申し込みを複数頂戴した場合には、大変勝手ながらこちらにて選考をさせていただきます。結果は、取材希望の連絡をもって発表にかえさせていただきます。ご連絡頂いた情報は、本目的以外には使用致しません。

WELCOME TO TUAD

開かれた芸工大への扉

図書館AVルーム

アートとデザインの大学という特色を活かし、本学図書館は書籍や映像資料を所蔵するだけでなく、ギャラリーやスタジオなどを「表現活動と鑑賞の場」としても提供しています。そのひとつに、ちょっとした試写会や映画鑑賞会にちょうどよい座席数30の小劇場「AVルーム」があります。16ミリフィルム映写機やフルスペックハイビジョン対応のプロジェクターがあり、古いフィルムライブラリーから学生の実験ビデオ・CG・アニメーション作品など、新旧メディアの上映に対応しています。

ここでは月に1回、山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局との共催で受賞作品の上映会を開催し、その上映回数はこれまでに50回を超え、一般市民の方からも好評をいただいています。また大学祭やオープンキャンパスでは、サークルや映像コース企画の上映会が定番になっていて、学生ならではのユニークな作品もご覧いただけます。ぜひお立ち寄りください。



1

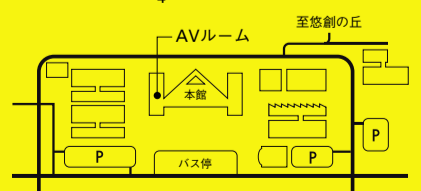


2



3

4: 図書館にはアート・デザインの関係誌を中心に、10万冊を超える蔵書がある。



CLICK HERE!

WEBでさらにg*gツウになろう

本誌g*gでご覧いただいた内容は、WEBでもご紹介しています。さらに、WEBならではのお楽しみもいっぱい。本誌ではご紹介しきれなかった作品やエピソードなどをプラスα編集。ご期待ください。また、読者のみなさんにご参加いただくコーナーへのお申し込み・お問い合わせ窓口にもなっています。下記のWEBサイトをクリック＆チェックしてみてください。

WEB: <http://gs.tuad.ac.jp/gg>

OPEN GALLERY

EVENT SCHEDULE **WEB**

7/13-8/20

この夏も温泉街に芸術の灯を灯す

教員や学生たちが肘折で制作した絵をまとった新たな灯籠31本が、開湯1201年目を迎えた肘折温泉街での火祭りにあわせて灯ります。

『第2回 灯籠絵鑑賞会「ひじおりの灯」』

会期：7月13日(日)～8月20日(水)

会場：肘折温泉街
(肘折絵語り・夜語り)

灯籠絵を描いた東北芸術工科大学の学生、教員、卒業生31名が、旅館や商店の軒先に吊るされた自作のそばで作品を解説します。

会期：7月14日(月) 18:00～21:00

会場：肘折温泉街
(肘折媒染)

学生が、天然染料で染めた糸を肘折温泉の源泉や黄金温泉のソーダなどに浸し、媒染しました。その糸は、月山和紙に漉き込まれ、共同浴場「上の湯」の壁面に新たな「ひじおりの風景」を創出します。

期間：2008年7月より恒久設置

設置場所：共同浴場「上の湯」内壁

その他にも多くの関連イベントやワークショップを開催します。詳しくは大学HPをご覧ください。



7/14-26

新しいCGパワーとの遭遇になるかも

映像コース西村ゼミの3年生、4年生、大学院生が中心となり、コンピュータグラフィックスとメディアと個人との関係性を表現する。CGとは何かを問い、CG表現でしか成立しないものを追求する。

『CGと私』

会期：7月14日(月)～26日(土)

会場：図書館2F スタジオ144/ガレリアノルド

7/15-31

夏の夜、高台のキャンパスが幻想的に

美術科工芸コースの学生たちによる作品展。夏の夜を彩るように光が灯る作品はとても幻想的です。

『ライティングオブジェ2008』

会期：7月15日(火)～31日(木)

会場：大学本館、本館前広場など

7/16

音楽が紡ぎ出すドラマが心揺さぶる

「戦争・子ども・芸術」というテーマのもと、ジャズサクソ奏者の坂田明氏らをお迎えして公演を開催します。

『坂田明 公演～死んだ兵士の残したものは～』

会期：7月16日(水) 18:00～19:00

会場：水上能楽堂「伝統館」

出演：坂田明(サクソ・クラリネット・歌)／黒田京子(ピアノ)／バカボン鈴木(ベース)／坂田学(ドラム)

入場料：一般1,000円、他大学生500円

7/17

真実故の説得力と感動のスクリーン

イヌイット一家の1年にわたる生活を描いたドキュメンタリー史上に残る傑作。NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭との共催。

『ドキュメンタリー映画上映会「極北のナヌーク」』

会期：7月17日(木)

会場：図書館2F AV ルーム

7/21-8/3

それぞれの地での新たな挑戦を応援

東北で学び、地域に根付き活動するアーティスト、新しい土地で挑戦するアーティストたちの生命力に溢れる作品をぜひご覧ください。

『I'm here. vol.1 | 仙台展 望月梨絵+ナガバサヨ』

会期：7月21日(月)～8月3日(日)

会場：ピクニカ+エノマノリブリッジ・エディット
なお、山形展は11月5日(水)～17日(月)、東京展は2009年1月19日(月)～31日(土)に開催予定です。



7/27

興味そそる、東北の建築、東北の未来

博覧会建築から家具まで提案する建築家、竹内昌義教授とともに、藤森照信教授と馬場正尊准教授が未来の建築を語ります。

『藤森照信+竹内昌義+馬場正尊が語る東北の未来の建築「東北R計画」』

会期：7月27日(日) 14:00～15:30

会場：せんだいメディアテーク1F オープンスクエア

個別入試相談会も同時開催

※入場無料で、どなたでもご聴講頂けます。



8/1

じっくり陶芸家気分で食器を創作

ろくろで制作した器に、染め付けの顔料、呉須を使って自由に絵柄を描きます。

『陶芸講座(ろくろで染付の食器を作る)』[全15回]

会期：8月23日～11月29日の土曜日

会場：ろくろ室(新実習棟C2階)

対象：一般の初心者から経験者

定員：15名

受講料：48,000円(粘土代は別途)

申込締切：8月1日(金)

講師：後藤智絵(陶芸家)

8/2-3

芸工大生気分をリアルに楽しめる2日間

学科・コースの模擬授業やワークショップ、作品展示のほか、在学生との学生生活相談コーナー、大学内を巡るキャンパスツアーなど、企画を準備。高校生・受験生と在学生・教員とのライブなやり取りで盛り上がります。入場無料・予約不要です。ぜひお越しください。

『オープンキャンパス2』

会期：8月2日(土)～3日(日) 10:30～16:00

会場：東北芸術工科大学キャンパス

企画：模擬授業、ワークショップ、キャンパスツアー、進学・入試・学生生活相談、合格作品展示、保護者対象の説明・相談会、画材ショップセール(20～40%OFF)ほか多数

山形駅、仙台駅、福島駅、酒田駅、鶴岡駅、盛岡駅、秋田駅からシャトルバスも運行します。詳しくは大学HPにて。WEB：gs.tuad.ac.jp/oc2008



8/5-10

うれしく誇らしい、修了生の活躍

大学院工芸専攻修了生の渡邊希さんが個展を開催。林野庁管轄日本特用林産振興会より『日本特用林産振興賞』を受賞した作品などを出展します。

『Nozomi Watanabe URUSHI WORKS EXHIBITION』

会期：8月5日(火)～10日(日)

会場：札幌 大丸藤井セントラル7F スカイホール

(北海道札幌市中央区)



8/6

真夏の祭典に、芸工大パワー注入

今年も山形花笠まつりに芸工大チームとして参加します。総勢約100名で隊列を組み、芸工大オリジナル(桜風吹)を踊ります。

『山形花笠まつり』

会期：8月6日(水)参加予定

※山形花笠まつりは8月5日(火)～7日(木)に開催されます。

9/20-21

保護者の方々へお知らせ

仙台と東京において、保護者会懇談会を開催します。保護者の方を対象に学科別の懇談会や個別相談会も実施します。各学科・コースの教員と直接話ができる絶好の機会です。ぜひご参加ください。

『保護者会懇談会』

〈仙台会場〉会期：9月20日(土)

会場：アエル5F 多目的ホール(仙台市青葉区中央)

〈東京会場〉会期：9月21日(日)

会場：東北芸術工科大学東京サテライトキャンパス(東京都中央区日本橋堀)

9/22-27

歴史の重みを感じつつ、一步また一步

21世紀地域間文化交流のシンボル、六十里越街道を行く「六十里越街道」。今回の歩く会では町先達と山先達が道案内をし、百年の眠りからよみがえる「六十里越街道」の再現を行います。これは、文部科学省 ORC 整備事業(平成17～21年)です。

『「六十里越街道」を歩く会』

会期：9月22日(月)～27日(土)

会場：山形と鶴岡を結ぶ「六十里越街道」の全行程
山形～寒河江、寒河江～岩根沢、岩根沢～志津、志津～田妻保、田妻保～注連寺、注連寺～鶴岡を6日間かけて歩きます。

参加費：無料(保険料は別途)

申込先：文化財保存修復研究センター

9/29-10/9

全国レベルの多彩な版画の世界に触れる

大学版画学会主催の全国大学版画展での受賞作品約30点と、本学などからの版画を専攻する学生作品を展示します。

『版画の断面展』

会期：9月29日(月)～10月9日(木) 10:00～19:00

会場：本館7階ギャラリー

9/29-10/11

それぞれの表現方法で成果を披露

映像コース3年生31名全員による、ビデオ、インスタレーション、写真の展示を行います。

『映像コース3年展』

会期：9月29日(月)～10月11日(土)

会場：図書館2F スタジオ144/ガレリアノルド/AV ルーム

10/11-12

毎年大盛況、今年の企画にもご期待

今年の大学祭「芸工祭」も様々な企画で皆さんのお越しをお待ちしています。展示や作品販売や模擬店 etc...。どんな企画が、どんな催し物があるかは来てのお楽しみ!ぜひ、(芸術の秋)の芸工祭へお越しください。

『芸工祭』

会期：10月11日(土)～12日(日) 10:00～20:00

会場：東北芸術工科大学キャンパス



10/20-26

いよいよデザ選のプレ展示スタート

10月26日(日)に開催される「第15回全国高等学校デザイン選手権大会『決勝大会』」に先立ち、出場する12チームの提案パネルを展示します。全国から寄せられた他の数多くの提案から選ばれた12チームの提案は、どれも個性的で共感できるものばかりです。

『第15回全国高等学校デザイン選手権大会 決勝大会プレ展示』

会期：10月20日(月)～26日(日)

会場：本館エントランスホール(南側)

※企画によっては、日程や開催時間に変更になる場合があります。ご了承ください。